

高齢者の肺炎球菌感染症と予防接種

1. 肺炎球菌感染症とは

肺炎球菌感染症とは、肺炎球菌という細菌によって引き起こされる病気です。この菌は、主に気道の分泌物に含まれ、唾液などを通じて飛沫感染します。日本人の約3～5%の高齢者では鼻や喉の奥に菌が常在しているとされます。

これらの菌が何らかのきっかけで進展することで、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症をおこすことがあります。

2. 肺炎球菌感染症予防接種の有効性

肺炎球菌には93種類の血清型があります。定期接種で使用される「ニューモバックスNP（23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン）を接種することにより、23種類の肺炎球菌に対する抗体ができ、これらの種類の肺炎球菌による感染症を予防します。この23種類の血清型は成人の重症の肺炎球菌感染症の原因の約7割を占めるという研究結果があります。

3. 肺炎球菌感染症予防接種の副反応

接種後に発熱したり、接種した部分が腫れたり、赤くなったりすることがありますが、一般的にその症状は軽く、通常、数日中に消失します。

特にご注意ください重大な副反応として、高熱、局所の痛みと熱を伴った赤い腫れ、指先のしびれ、歩行困難、皮下出血等があらわれることがあります。非常にまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難などがあらわれることがあります。

過去5年以内に「ニューモバックスNP」を接種されたことのある方が、再度接種された場合、注射部位の疼痛、紅斑、硬結等の副反応が、初回接種よりも頻度が高く、程度が強く現れるという報告がありますので、必ず接種歴を確認して接種してください。

4. その他

- (1) 予防接種を受けた後30分間は、急な副反応がおこることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- (2) 予防接種後24時間以内は体調に注意しましょう。
- (3) 入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。
- (4) 予防接種当日は激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- (5) 予防接種を受けた後、高熱や体調の変化、その他接種部位の異常に気づいた場合は、医師の診療を受けてください。